



日本の教会の破れ口 「クリスチャン同士の結婚」その3 幼少期から青年期、結婚前まで — 独身のうちに知っておきたいこと ② —

クリスチャン結婚支援ミニストリー
「リベカ」代表 中西じゅん子

今回は「いかにして神のみこころを確かめるのか」というテーマでお話ししました。今回は、幼少期から結婚前までの成長段階の過程で知っておきたいこと、気を付けるべきことなどをお話したいと思います。

各成長段階の過程ごとに大切なこと

クリスチャン結婚支援ミニストリーは、2017年に2名の会員からスタートし、ちょうど5周年となりました。その間、104組の結婚カップルに関わり（2022年9月3日現在）、クリスチャンホーム建設のお手伝いをさせていただいています。

この働きの中で考えさせられていることは、「いざ『結婚』という時になって、準備が整っていない独身者がいらつしやる」ということです。結婚までの独身時代、特に重要なことには、どんなことがあるでしょうか？

幼少期

一番初めの人間関係は「親子関係」です。「いざ結婚」という時になって、クリスチャン、ノンクリスチャンにかかわらず、実は多くの方が親子関係に悩み、そのことがネックとなって先に進めない状態になっている場合があります。

「親子関係」は、基本的な「自己肯定感」のほか、信仰面でも「父なる神へのイメージ（神観）」への影響を及ぼします。最初の人間関係である親子関係により、「お父さん、お母さんは、いつでも私の味方である」という絶対的な安心感と信頼感を持つことができるかどうか、その後の人間関係

係に大きな影響があるようです。

「私は愛されている存在だ」「私は価値のある存在だ」という「自己肯定感」も、親の接し方や言葉かけ、本人の受け取り方や感じ方により形成されていくようです。それだけでなく、幼稚園や保育園、学校生活、職場での環境や出来事も、「自己肯定感」を左右する一因となっていることでしょう。

「自己肯定感」と言うと、諸外国に比べて、日本の若者の「自己肯定感」が著しく低いことが発表されました。2014年に内閣府が実施した若者（満13〜29歳、7431名）を対象とした、意識調査「子ども若者白書」により、日本を含めた七カ国（ドイツ、フランス、イギリス、アメリカ、スウェーデン、韓国）の中で、日本がダントツに「自己肯定感が低い」という結果が出たことは、家庭、教育、学校、職場などへの問題提起のきっかけとなりました。

「あなたは愛されています！」というメッセージを、聞いて育ったはずのクリスチャンホームの子どもであっても、自己肯定感の低い子どもは多く、むしろ一般家庭よりも自己肯定感が低い場合もありえます。特に律法的で厳しい家庭の場合、教会へ行っていても「愛の神」ではなく「裁判官のような神」というイメージが強く、常に神に裁かれているような、平安のない心のままでクリス

チャン生活、家庭生活を続けてしまった結果なのか、と思うことがあります。

結婚適齢期になってから急に「自己肯定感」を上げることは難しく、婚活をしていく中で「自分はダメな人間だ」と思い込みやすい、挫折や失敗に弱く、すぐに心が折れて諦めてしまう、ネガティブなことばかり言うので異性や周囲の人が離れてしまう、などの問題が起こってきます。

人生の土台づくりの時期と言える幼少期には、良好な「親子関係」の中で基本的な安心感と信頼感を得ること、健全な「自己肯定感」やセルフイメージを持つことが望ましいのです。

ただし、結婚相手は選択の要素があるものの、「親子関係」に選択の要素はなく、自分が選んだ親や家庭ではありません。良い親、良い家庭ばかりではないでしょうし、信仰を持っていない両親であるかもしれません。今は離婚家庭も多い状況で、傷ついた家庭から傷ついた子どもたちが、やがて結婚適齢期を迎えます。「自己肯定感」にしても、好き好んで低いのではなく、低くならざるを得なかった環境や理由があったかもしれません。

私自身、子どもの頃からかなり大人になるまで自分自身が好きではなく、健全な自己肯定感を持っていませんでした。親子関係についても、良い時もあれば良くない時もありませんでしたが、結婚後

の今に至るまで、様々な経験を通して一步一步、成長や改善がなされてきたと思っています。過ぎてしまった幼少期に戻ることはいきませんが、いくつになっても「親子関係の回復」と「自己肯定感を取り戻す」ことは可能です。もし「ここ」つまり「ここ」に「ここ」と感じられるなら、時間を取ってそのことを重点的に祈り、心の内を探りながら何度でもチャレンジして、主に取り扱っていただくことを求めていると願っています。



学生時代（10代〜大学生）

10代はおろか、幼稚園や保育園に入れば、もう「他者との比較」があり、「競争の社会」に投げ込まれることとなります。多くはクリスチャンや信仰とは関係のない一般の社会でしょうから、驚くほどひどい言葉や態度をとる人もいるかもしれない環境です。そこで、幼い頃に健全な自己肯定感